

科目名	担当者名	配当	期	単位
外国法 I	吉川達夫	1・2・3選必	前期	2

■講義内容■

本講義は、アメリカの法制度と日本企業が米国との取引で生じる法的問題を理解することを主な目的とする。法曹に携わる者として、アメリカの法律や制度を全く知らないということでは問題である。実際、日本は国際的な取引を行うことでなりたっており、その中でアメリカ法による取引はアジアを含む様々な国とのベースになっている。さらに、日本企業は、日本においても米国における紛争にまきこまれる実情がある。

担当教員はNY州の弁護士であり、日本の総合商社と米国外資系企業の法務本部長の実務経験と米国のロースクールでの非常勤講師として25年以上の経験があり、これを本授業にいかすものである。

■シラバス■

<科目のねらい>

本講義では、(1) 米国法、(2) 裁判制度、(3) 契約法、(4) 会社法といった基礎的な法律、米国における日本の在米子会社の事件と米国間の国際取引などを取り扱う。必要に応じて授業で追加の判例を示す。英語を扱う場合でも訳を示すことで英語力はとわらない。

第1回 オリエンテーション

第2回 米国法における連邦法と州法

米国における連邦法と州法の二元構造を理解する。

第3回 米国訴訟のながれ

裁判制度、連邦裁判所と州裁判所の管轄について理解する。

第4回 日本企業に対する米国訴訟

アサヒメタル事件（連邦最高裁判所）、管轄権について、ミニマムコンタクト理論。

第5回 米国訴訟の実際 1

日本企業（在米子会社および日本本社）が実際訴えられたケースを検討する（送達問題）。

第6回 米国訴訟の実際 2

ディスカバリーといった証拠開示手続きを理解する。

第7回 製造物責任法

懲罰的賠償事件を理解する。萬世工業事件（最判平9.7.11）

第8回 契約法の原則と UCC

日本法との比較をしつつ、契約法の概要および Uniform Commercial Code を理解する。

第9回 米国独占禁止法と域外適用

日本企業が日本において米国の独占禁止法違反を問われたケースをとりあげる。

第10回 雇用関係法

日系企業をまきこんだ労働関係事件と労働法の基礎をまなぶ。

第11回 知的財産法

知的財産法の基礎と紛争事例をまなぶ。

第12回 会社法

米国の会社制度を日本と比較しつつまなぶ。

第13回 アメリカ法判例研究

第14回 事例研究

第15回 定期試験

<教科書>

吉川達夫編著ケースブック『アメリカ法概説』（レクシスネクシス社、2007年）

<参考書>

田中英夫編『Basic 英米法辞典』（東京大学出版会、1993年）